

発行日 平成14年11月8日
 発行者 江別市生涯学習推進協議会
 編集 広報小委員会
 連絡先 江別市教育委員会生涯学習課
 高砂町24-381 1062

子どもの心

今日、物質的な豊かさの一方、子どもから大人まで心をめぐって様々な問題が現れています。複雑化した現代社会にあって、どうしたら私たちは心豊かに生きていくことができるのでしょうか。第2回目となる今回は、特に「子どもの心」を中心に各界の専門家によるリレー講演とシンポジウム、そして世界のすぐれた児童書の展示会を通して考えます。

第2回生涯学習フォーラム

こころの時代を問う

I 11/21(木) 19時
 「思春期のこころ
 小児精神科医の立場から」

氏名 武氏

53年札幌市生まれ。北海道こども心療内科院長。札幌医科大学医学部卒業。東海大学医学部精神科研修を経て、87年、89年英国に研修留学。著書に「小児のうつ病・不安障害」など。
 会場は4回とも中央公民館

II 11/28(木) 18時30分
 「夢」可能性を
 見出すために」



金田一仁志氏

59年紋別市生まれ。俳優・戯曲作家・テレビキャスター。84年専門劇団より独立。90年演出。主演の「ドリスとジョーシ」で札幌市民芸術奨励賞受賞。

国際アンデルセン賞

IBBYオナーリスト図書展
 この図書展では、「国際アンデルセン賞」60年度受賞者の作品と、IBBY Honour List 2000を手にとりてご覧いただけます。各国のエッセンスあふれる本に直接触れて、「本の中の世界旅行」を楽しみませんか。

日程

12月4日、12日 情報図書館
 12月14日 コミュニティセンター

III 12/5(木) 18時30分
 「児童虐待は
 増えているか」



長野正稔氏

52年生まれ。北海道中央児童福祉所指導援助課長、主任児童福祉司。78年から北海道職員。北見・釧路・旭川・室蘭など道内の各児童相談所勤務を経て、02年4月より中央児童相談所勤務。

IV 12/12(木) 18時30分
 「性」と麻薬」



田村 隆氏

48年生まれ。江別警察署生活安全課長。76年8月北海道警察に入庁。札幌方面中央警察署を振り出しに道内9ヶ所の警察署に勤務。主に生活安全部門。02年4月より江別警察署勤務。

シンポジウム

公演 1
 絵本の読み聞かせ・おはなしパ
 ネル

作品 「国際アンデルセン賞受賞者」の作品から

出演 読み聞かせサークル「おはなしなあに」の皆さん

講演 演題 「子どもの本が伝えてきたことーアンデルセンがかけた橋」

講師 柴村紀代氏
 児童文学作家・藤女子大学講師

公演 2
 朗読 作品 「アンデルセン」の作品がら

出演 朗読の会 松村美智子氏

日程 12月14日
 公演 1 13時45分、14時20分
 講演 14時30分、16時00分
 公演 2 16時05分、17時00分

会場 江別市コミュニティセンター1多目的ホール

定員 一般 300名(託児有)

入場料 一般 500円(税込み)

学生 無料

お問い合わせ

教育委員会生涯学習課事業推進係

381 1062

生きることと学ぶこと

私にとつての原始林

私と原始林



石井 勝さん

道都・札幌の隣りに都会のオアシスとして位置する野幌森林公園、原始のままの姿である。この恩恵に浴せる私達はなんと幸せなんだらうとつくづく思う。原始林は夏はウォーキング、冬は歩くスキーにと私達を温かく迎え入れてくれる。

「江別歩くスキーの会」(夏は走ろう会となる)に誘って下さる方がいて、私はこの会に飛び込んだ。毎月の例会が楽しい。文京台小学校からスキーをはき、新雪を踏んで同好の志と進む。慣れてくるとワイワイ話しながらも進める。突然原始林の入口に出る。「今日はAコース・Bコースの二手に分かれて進みます。自分の体力と相談して参加して下さい。」説明に応じて分かれ、本格的な歩くスキーが始まる。

胸をワクワクさせながら先導の人について行く。平坦な中にも登りあり、下りあり、池あり沼あり、一人では抱えきれない大木もある。時にはシマフクロウがいるというので大勢のバードウォッチャーにも出会う。

汗をたっぶり流して文京台地区センターにたどり着く。心のこもった味噌汁やコーヒートと楽しい大勢の仲間が待っていてくれる。「石井さん、よく頑張ったね。」「ワックスはね、帰ったらすぐ手入れしなさいよ。」「ほめてくれる人、微に入り細をうがつ教えをくれる人。うれしい。幼なじみの友達以上の存在だ。」

野幌原始林、生きがいと健康づくりに欠かすことのできない大切な、大切な場である。



(大麻中町在住)

原始林と私



岩佐吉記さん

この原稿依頼を受けた際フット

さな頃、原始林によく入り無邪気に遊んでいた頃を思い出していた。今現在となつては本当に「森に触れる」機会というのは自分の中ではめっきり減った気がする。正直都市生活における物の豊かさばかり追求するあまり、「部分が欠け、自然環境へ目を向ける事により生まれる心の豊かさへの追求を忘れていた気がする。そんな中、今年より野幌森林公園を背景にしている職場(野幌小学校)で働くことになり、心の豊かさ」を養っていかうと努力している。わがままな弁解になってしまいがちだが、不慣れさから職場内に於ける動植物にしか目を向けられない毎日である。それでも今まで感心すら示さなかった面に出会え季節によって変化していく木々、鳥

や苦手である爬虫類、両生類の生態系を拝見できた時、それらを純粹に目を向けている自分がいる(腰を抜かす程の出来事にも遭遇するが...)。格好つけているようだが、自分の中では「心の豊かさ」に少なからず結びついていると思う。横道にそれているが、始めて職場の屋上から幾重に連なる原始林のパノラマが目の中に入ってきた際、その壮大さにはしばらくその場を動けなくなったの思い出してしまつた。

今、想像もつかない様々な出来事が起こる。言葉が悪いかもしれ

ないが、殺伐とした現在、森に触れる事により、忘れかけていた「何か」を気付き起こさせ、新たな発見や驚き、感動を味わうことにより、「ゆとり」が生まれてくる気がする。私はこれから謙虚な気持ちで自然に触れ、心身の向上に努める事ができればと考えている。

(大麻中町在住)

歩けば心が空になる



日蔭澄子さん

森のそばに暮らし始めて20年近くたちました。気がつけば、森を歩くことが唯一の趣味になりました。

以前は、花の名前も樹木の名前もほとんど知らない私でした。友人と歩きながら何度聞いても頭に留まらず、またあえて図鑑などで覚えようともせずにいきました。一人で歩くこの頃、目にしたものの名前が「ぼっ」と浮かびます。不思議なことに、教えてもらった友人の声が再生されて。

今は秋。歩いている背中で「バサッ」という音がして振り向くと、高い木の樹からお面のような葉っぱが紙ヒコーキのように降りてきて着地しました。

いつも見入ってしまうのは、倒木や伐り株が朽ちている姿です。年月を経て、いちめん緑の苔に覆われ、フカフカとしたその上には小さなイタヤ、タチツボスミレ、ツタの一種が着床しています。7mほどの倒木もそれ自体大きな森の世界に見え、伐り株は仙人が住んでいそうな切り立った山に見えてきます。5ミリほどになった私

がそこを歩いているような空想が拡がります。昔聞いた「倒木更新」という言葉。私も朽ち果てる日、こんなフカフカを次の世代に用意してあげられるのかと思います。

森に入る時、複雑な感情を抱えて歩き始めた私も、森を出るときにはいつも心がすっかり「空」になつていることに気づきます。

(文京台南町在住)

ビーバースカウト募集

日本ボーイスカウト 江別第1団

本誌22号でも新隊員募集の記事を載せましたが、残念ながら今少し反応がありません。隊の継続はやはり最年少のビーバー隊員からと思えます。

ビーバースカウトはボーイスカウトでは1番年少の、小学校入学直前の1月から小学校2年生で構成されるグループです。活動内容は身近な遊びを中心に、花壇づくり、歌、工場見学など月2回のペースで主として市内公民館や野外で実施します。

この年代は傾向的には、まだまだ自己中心的な面が多く見られますが、年代的に幼児期から児童期への過渡期であり、遊びの中から仲間や周囲の人々、環境を意識し社会性を身につけていく大切な時期であると思えます。また、話せばとても素直にわかってくれる時期でもあります。

ビーバースカウトはこうした年代のスカウトを対象に、遊びの中から周囲の人々や環境を意識させることで、スカウトの年齢に相応した社会性を育む活動を行います。

スカウト運動の目的は青少年の品性の陶冶および国際愛護精神の増進を図り、その健全育成に資する事とあります。当団も47年の伝統を守るべく努力しています。

対象年齢は幼稚園年長のお子さんがメインです。どうか市内幼稚園の御父母の皆様のご口コミにより多数のご応募お待ちしております。

対象 小学校入学直前の1月から小学校2年生まで

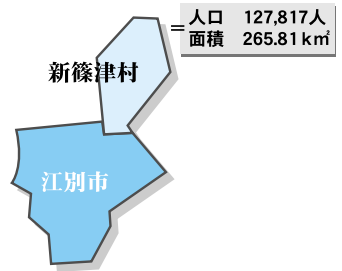
会費 隊費(1万円・年)と登録料(2千5百円・年)

詳細については

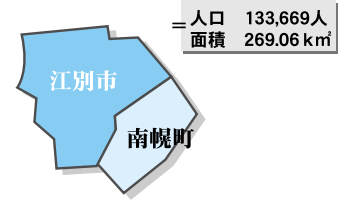
飛田時枝	384	0757
越中勉	383	2482

北海道が示す合併パターン

① 江別市 + 新篠津村



② 江別市 + 南幌町



地域の未来をともに考える

今、全国的に注目を浴びている課題として「市町村合併」がクロズアップされています。地域の未来のあり方に重大な影響を持つテーマであることから、この市町村合併に関する議論が全国的に活発になされています。江別をどういった姿にもっていくか、将来のビジョンを実現させるために合併という手段が有効なのか。この問題に関する講演会が9月28日に市民会館で行われました。

市町村合併を考える講演会

ランドを見出ししていくのはなかなか難しい。今後、レンガなどの地域のブランドをどうしていくかを議論していかなければなりません。

次に都市部になるほど地域のコミュニティが弱くなっていること。最近大きな合併のあった「さいたま市」の市民の反応も合併そのものの意識があまりない様です。「コミュニティの形成が弱いところにとっては、合併のテーマが身近に意識されないことになる。こういう本質を抱えながら合併を考えていかなければなりません。

また、合併推進の背景には財政危機の問題があります。道も市町村も事実上財政破綻の淵にあり、これを克服することから合併の話が提起されています。

す。財政繰りの面から行政区画を維持できるか極めて大きな問題です。結論的には行政区画たる江別市を残したいということであれば、これからは市民が役所を支えるという考えを持っていかないと、もう江別市には残念ながら余力はありません。この問題も整理していかなければなりません。



合併するしないは「手段」であり「目的」ではありません。今の区域が最適ならば守っていかねばならないし、もう少し広い区域ということであれば、合併ということになる。この議論をまず先にしないと地域の維持・発展をどうするかにつなげていけません。

現在、北海道が示す合併パターンとして、江別市の場合、江別市+新篠津村と江別市+南幌町の案が出されています。しかし、合併するかしないかの話し合いをする前に、江別市の財政問題・地域の価値感を、行政と市民・住民全体と共有する必要があると思えます。

専門用語も多かったですが、一主婦の立場からでもある程度理解できる内容でした。今後もっと多くの市民が参加し、行政側を知る・歩み寄ることができるようになればとてもいいと思えます。

(点字さくへの会 齋藤)

案内

市内学習ポイント 22



江別グレシャムアンテナショップ

米オレゴン州のグレシャム市は江別と太平洋を超えて強い絆で結ばれる姉妹都市。このアンテナショップは両市の地域産業の振興への知恵と、情報を交し合い友好を更に強める意図をもつ21世紀型の情報拠点と云えます。

東野幌町、通称鉄東線沿い、旧肥田製陶第一工場で現存する江別最古の煉瓦工場。これを新しい時代のシンボル施設として活かすアイデアは、グレシャム市で街の歴史的建造物を未来志向型施設に生かした「エッジフィールド」の成功例に学びました。

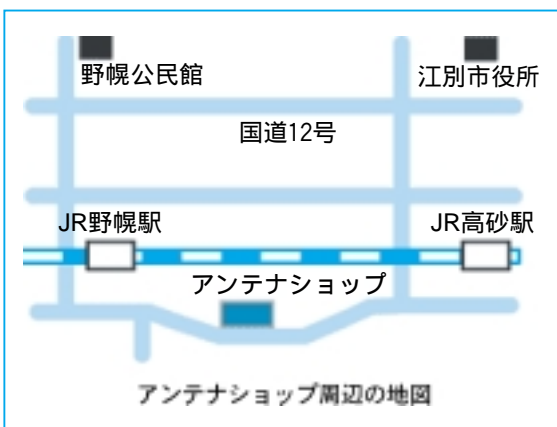
中へ入るとグレシャムからの衛星中継でFM局(KMHD)からのFM音楽がライブで流れ、洒落た喫茶コーナーでは同市特産のポイド社のコーヒーの香りが漂います。情報コーナーでは市民が利用できるパソコンが並びグレシャムは勿論、世界中とのネット交信で多様な情報が得られます。

更に奥へ進むと良質な野幌煉瓦を焼き続けてきた窯を背景に、現代絵画彫刻の展示にピッタリなギャラリーが続きます。取材中「ここを江別のSOHO [ソーホー] (ニューヨークの前衛的藝術ゾーン) にするんだ...」と意気込む声が聞かれました。

まあ一度お立ち寄りください。江別が実にユニークな過去と未来志向を併せ持つ街であることがお分かりになるでしょう。

なお、このアンテナショップの管理は江別市からの委託で“NPO法人やきもの21”が担当しています。

- 《開館》午前10時～午後8時
毎週月曜日、年末年始休館
- 《住所》江別市東野幌町3番地3
- 《電話》011 385 6056



鈴木 克己さん

マイ・ブーム

「温泉めぐり」

私は温泉が大好きです。好きといっても一つの温泉に長時間入浴することあまり得意ではなく、いろいろな温泉をめぐることによりその温泉の効能はもろもろのこと、雰囲気やロケーションの違いを肌で感じたい、というのが本当のところかも知れません。

私が「温泉めぐり」に懲り出したのは大学生の頃で、2、3日の暇を見つけては仲間内でぶらりと「温泉めぐり」に出かけたものです。その結果、道内の温泉はほとんど制覇した(?)つもりでありますし、日本の温泉では飽き足らず、ついには海外の温泉にまで手を伸ばす次第でありました。

あの頃から約10年、どうしても行く機会がなく、ずっと気になっていた温泉があります。それは長万部町にある「二股ラジウム温泉」です。そこで今年のゴールデンウィークには何とかそれを決行しよう和家人で出かけてきました。

温泉はリニューアルされており、私が以前写真で見て思い描いていたものとはかけ離れたものでしたが、長年の夢がかなったのでとても嬉しかったです。これからも、行っていい温泉があればどんどん出かけて行きたいと思っています。

(青年会議所)

事務局から

生涯学習情報誌ら・ら・らは皆様からの原稿や生の声をお待ちしています。生涯学習そのものについてのお考え、日頃の学習活動を通して得たもの、やっつけてよかったと感じることなどを、どんどんお知らせ下さい。詳しくは事務局まで「一報願います」。

【事務局】

- 江別市教育委員会生涯学習課
- 011-381-1062
- 011-382-3434

編集後記

すっかり秋めいてきました。夏らしい日が少なかった今年の夏はもう遠い存在に。そしてもう雪の季節はすぐ目の前です。冬を迎える準備…いただいたチューリップの球根を植えなくちゃ!どんな色を見せてくれるのか待ち遠しい来春です。そして衣替えもしなくては!

(齋藤)

